



燕 土 第 1 1 9 0 号
平 成 20 年 10 月 10 日

国土交通省道路局長 様

燕市長 小林 清



「今後の道路行政についての意見・提案」の提出について

平成20年9月19日付け国道企第37号で依頼のありました標記
の件について別紙のとおり回答いたします

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ①

新潟県燕市

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

当市は一般国道116号(仮称)吉田バイパスをはじめとする国・県道並びに市民生活に密接な市道について、次のとおりまだまだ多くの問題・課題があります。

- 狭隘で車両のすれ違いが困難な箇所
- 通学路であって歩道が未整備な箇所
- 歩道が狭隘になっている踏切
- 他、不具合で危険な箇所・・・

然るに、当市をはじめとして多くの自治体における道路整備環境は不十分であります。

平成21年度から道路特定財源の一般財源化が閣議決定されましたが、必要不可欠な道路整備、特に地方の抱える細かな問題に対し柔軟に対応できるよう、自治体裁量による整備への財源確保について早急に方向性の確立を要望いたします。

②-1 地域の現状と抱える課題

新潟県燕市

○現状

平成18年3月20日、3市町の合併により新燕市が誕生いたしました。

合併に際し新市建設計画を策定し、魅力あるまちづくりのための将来像を定めました。

それらの実現に向けて、現在の住民ニーズ・社会情勢や行政課題等を的確に把握し対応していくため、19年度で総合計画の基本計画について議会の承認をいただき、今年度はその前期実施計画と都市計画マスタープランを策定しております。

○課題

新市移行後は、継続事業や前期実施計画搭載事業に鋭意取り組んでおります。

今後は橋梁の長寿命化計画策定に伴う修繕・改修や冬期間の交通網の確保といった市民生活の利便、安心、安全を図るため道路整備や維持は必要不可欠なものであり、地域住民からの道路整備に対する要望を強くいただいています。

こうした中で、道路特定財源が平成21年度から一般財源化されることになり、現行の「道路整備事業に係る国の財政上の特別措置に関する法律」のもとで実施されている「地方道路整備臨時交付金」等の制度が維持されるか不透明であるなど、今後、道路事業が円滑に推進されるかどうか危惧しています。

②-2 地域の目指すべき将来像

新潟県燕市

平成18年3月20日、旧燕市、吉田町、分水町が合併して誕生いたしました。わが国を代表する金属加工産業の集積地であり、地場産品の物流を支える商業や、米どころ越後平野の一画を担う農業が均衡ある発展を遂げてきた産業の市です。また、信濃川・中ノ口川や国上山をはじめとする豊かな自然、さらに歴史に根ざした文化や伝統などの優れた地域資源が豊富な市です。そして、この市に暮らす人々は、名僧・良寛の慈愛の心や長善館に象徴される人材育成の精神、度重なる河川の氾濫に立ち向かい、産業界の変遷の中を技術革新で切り開いてきた力強さという、無形の財産を受け継いでいます。こうした地域の財産を受け継ぎ、さらなる発展を目指して、市の将来像として「人と自然と産業が調和し、進化する燕市」を掲げており、こうした将来像を実施するためにも道路の整備は不可欠と考えます。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ④

新潟県燕市

③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
・道路網の整備	・一般国道116号(仮称)吉田バイパスおよび自歩道・交差点整備の促進 ・粟生津幹線6号線道路整備事業(地方道路交付金)	幹線道路、生活道路を含め、市民が安心・安全で快適に利用することができる。	
・交通安全対策の充実・強化	・吉田幹線20号線鴻巣踏切歩道整備事業(地方道路交付金) ・白山町三丁目2号線農業センター踏切歩道整備事業(地方道路交付金)	安全安心な歩行区間の確保を図る。	